

研究テーマ ヤマモモ葉を食品の品質管理と人の健康管理に利用する機能性成分研究
所属氏名 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 自然科学
教授 増田俊哉

研究シーズ概要

ヤマモモは、徳島県の木として、高知県の花として選定されており、四国においてはなじみ深い果樹である。しかしながらその資源としての利用は限定的である。我々のグループは、ヤマモモの未利用葉部の生体成分に対する酸化劣化防止能に着目し、その含有物質の検討を行ってきた。その結果、通常の抗酸化機能に加え、食品などの劣化酵素として知られるチロシナーゼやリポキシゲナーゼの阻害能を有する物質が含まれていることを解明した。抗酸化性を有する植物は多々あるが、ヤマモモ葉部には、それに加え酵素的な酸化劣化の防止能が期待される。また、チロシナーゼやリポキシゲナーゼは人にも存在するため、人の健康にも寄与することが期待される。



ヤマモモの果実と葉

(想定される)応用範囲／今後の展望

本来未利用の葉であるので、これを用いた食材の開発が期待できる。特に含有成分からハーブティーとしての商品開発は大いに期待できる。また、人の酸化酵素に対する阻害効果が期待できれば、美白や抗炎症などの化粧品や薬品素材としての開発も期待できる。